

## 会 長 あ い さ つ

宮崎県校長会長 米 村 公 俊

爽やかな風に、早くも初夏の到来を感じる季節となりました。令和元年度が、それぞれの学校で活気に溢れてスタートしていることと存じます。

宮崎県校長会研修会全体会におきまして、会長としてご承認をいただきました宮崎市立宮崎東中学校の米村です。新役員を代表しまして、ごあいさつを申し上げます。

この3月末の定期異動により、小中学校で73名の先生方がご勇退をされました。そして、小学校26名、中学校21名の先生方が新たに校長に採用され、また、25名の先生方が新たに県教育委員会より転入をされました。新任と転入の校長先生方にお祝いと歓迎の言葉を申し上げます。これまでに培ってこられた経験と力量をもとに、新たな感覚で学校の経営にご尽力くださいますようご期待申し上げます。

さて、今、時代は変化という言葉では、言いつくせぬほどの変容を遂げようとしております。私どもは、昭和から平成へと移り変わる時代を生きてまいりました。平成の時代が始まったときに、「想定外」という言葉が想像できたでしょうか。これからの「令和の時代」もまた、予測不可能なレベルで変容していくのかもしれませんが。内は「働き方改革」から外へは「外国人人材の活用」また人工知能への対応など。これからの時代は、対話の能力は、人対人から人対AIということになるのかもしれませんが。

そのような不安の多い時代になっても、変わらないものは何か。それは「校長のリーダーシップへの期待」であるように思います。新学習指導要領となり、大学入試制度が改革され、「何を教えるか」「どのように学ぶのか」という、学びの質や深まりを担うのは、やはり学校です。かつて、進路指導が出口指導に偏重していた時期に、小中学校は率先してキャリア教育に取り組んできました。いかに、時代が変化していこうとも学校は、必ず、しなやかな対応ができると信じたいと思います。再度申し上げますが、そのために、求められ、不可欠になるのが「校長のリーダーシップ」であると思います。

私たち校長は、このような状況をしっかり受け止めつつ、常に教育の原点、いわゆる「学校教育の目的」は何かを、見失うことなく、児童生徒の実態に即した、指導を行うことが大事であると考えます。

最近、様々な不安からか、学校へ過度な要求も多くなり、その解決に苦心している学校も多いことと思います。また、インターネットやスマートフォンの利用は、利便性とは裏腹に大きな影を落としています。これらの課題に対して、県校長会としても、これまで以上に県教育委員会、市町村教育委員会と具体的に連携を強化して、一体となって取り組んでいかねばならないと考えます。まずは、私たちが、今まで以上に、校長同士の連帯感、結束力を強化する必要がありますし、決断すべきときには、信念に従って果敢に行動する勇気と実行力を併せ持つ、多くの仲間がいる、そのような校長会でありたいと願っています。

また、本年度は、九州地区小学校長会協議会宮崎大会が開催されます。この大会を契機として、さらに校長先生方の力が結集できるものと考えます。校長先生方お一人お一人と共に、市町村校長会・支会校長会があり、県校長会があることを感じられるような組織を創っていかねばならないと考えております。

終わりに、今一度、校長先生方の県校長会に対するご理解とご協力をお願い申しあげまして、あいさつといたします。

令和元年5月